

「子どもの健康と安全」における 乳幼児の事故防止につながる安全教育教材の実践 —保育施設におけるESD・SDGs活動の一環とした安全教育に着目して—

Practice of Safety Education Materials for The Prevention of Infants' Accidents in "Children's Health and Safety"

後藤 由美
Yumi Goto

愛知みずほ短期大学
Aichi Mizuho Junior College

キーワード： 子どもの保健； 保育施設； ESD・SDGs； 安全教育教材。

Keyword: Children's Health and Safety; Childcare facilities; ESD・SDGs; Safety teaching materials.

1. 問題と目的

我が国では、少子化や子ども・子育てをめぐる環境が問題視され、核家族や地域のつながりの希薄化による育児不安や孤立傾向といった課題を抱える家庭も多い。また、保育所を利用したいと考えていても、待機児童が生じ、仕事と家庭の両立できる環境整備を必要としている。平成27年に、子ども子育て支援給付や子ども子育ての支援内容を定めた「子ども子育て新制度」がスタートした。このような背景から、保育施設における子どもの健全な育成は重要であり、必要不可欠なものとなった。

一方、子どもの死亡事故は、昨今著しく減少してきたが、先進国に比べると死亡率が高い。平成29年教育・保育施設等における事故報告集によれば死亡事故や治療に30日以上を負傷や疾病を伴う危篤な事故等、事故報告件数は1,242件であった。また、1歳以上の死亡事故の要因として「不慮の事故」が上がっている。これらのことから、保育施設での事故防止の意義は重要であると考えられる。

さらに保育士養成課程では、平成31年から新教育課程として「子どもの保健」「子どもの健康と安全」に変更された。「子ども健康と安全」では¹⁾、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解すると明記されている。さらに、平成30年に改訂された保育所保育指針解説²⁾では、改訂の方向性の一つとして子どもの

育ちをめぐる環境の変化を踏まえた健康及び安全の記載の見直しの中で災害発生時の対応を保護者と共有するとともに、平時からの備えや危機管理体制づくり等行政機関や地域の関係機関と連携しながら進めることが求められている。このような背景から、子どもの安全意識を高める教材開発的研究として伊東³⁾⁴⁾らは保育者からヒヤリハットする場面を塗り絵教材として作成したが、実践と評価は明らかになっておらず、教材としても凡庸性と実用性を判断したが、具体的な実践にかけたアクションリサーチを行いたいとしている。また、是澤⁵⁾は、安全教育教材としての紙芝居の検討を行い、安全教育紙芝居は幼児期から防犯意識を育成するにあたり、適材としている。北村⁶⁾らは「安心」「安全」な社会をしなやかに持続可能な社会を実現するために必要な教育として安全教育の具体的なあり方を検証している。その結果、ESDのような総合的・包括的なアプローチを安全教育に取り入れ、問題発見、問題解決による、参加・体験型プログラム構築を行っている。このような持続可能な安全教育は幼児から有効だと考える。

そこで、本研究は、保育士養成課程「子どもの健康と安全」における保育施設の持続可能な安全教育の理論的モデルを構築し、安全教育教材開発を目的とした。

2. 研究方法

2.1 対象者及び実践期間

実践は2018年12月から3月の3日間。実践時間は

午前 10 時から 11 時である。保育園における年長クラス 31 名を対象とした。

2.2 倫理的配慮

実施の目的を紙面と口頭で説明をし、実施園での同意を得た。また、音声を録音することを研究の目的に即して分析に使用すること、結果を論文などで発表することを説明し、承諾を得た。本文中の個人名は、アルファベットで表し、個人情報の保護に配慮した。

2.3 調査の概要

「危険箇所マップ作り」を以下のように実践する。各 1 時間、3 回行った。

①危険を知る

危険を知るでは、子どもたちに安全に関する絵本を読み聞かせする。危険についての教材を作成し、子どもたちと話し合いをする中で「それぞれ危険だと思う場所」「何が危険なのか」「どうなるのか」を話し合いの中から共有する。自分で発言をし、友達の意見を聞くことで認識につなげていく。子どもが発言したことを保育者が反復して知らせ、繰り返し唱えることで危険行為や危険箇所を知る。

②危険箇所探索、マップ作り

危険箇所探索、マップ作りでは、クラスを 3 グループに分け、園内探索をする。実際にその場に行くことで、認識だけでなく視覚にも投げかけていく。保育室に戻ってから、各グループと情報を共有し、マップに危険箇所及び危険要因を示していく。その際、子どもたちに「なぜ、危ないのか」と問いかけることで、思考の機会につなげていく。

③実践を通して

園外保育に行き、園周辺の危険箇所を確認していく。

3. 結果と考察

3.1 教材開発

過去 3 年分の「学独立行政法人日本スポーツ振興センター学校事故事例データベース」⁷⁾より事故事例を抽出した。その事故事例を子どもの生活場面と照らし合わせてイラスト化し、「それぞれ危険だと思う行為及び場所」「どうなるのか」を話し合いの中から共有する。子どもが発言をし、友達の意見を聞くことで認識につなげていき、習得教材とした。(表 1 に一覧を示し、教材を図に示す)

表 1. 事故防止呈示教材一覧

行動	起こりうる事故	図
走る	転ぶ	図 1
階段で滑る	階段で転倒する	図 2
棚を触る	棚の下敷きになる	図 3
扉に手をかける	扉に指や手を挟む	図 4
友達と走る	友達とぶつかる	図 5
おもちゃの上を歩く	転ぶ	図 6
棚にぶつかる	物が落ちてくる	図 7



図 1. 走って転ぶ

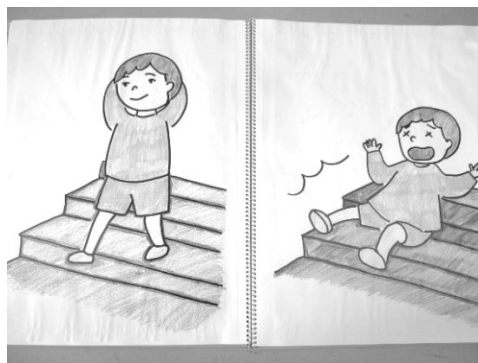


図 2. 階段で滑って転倒する

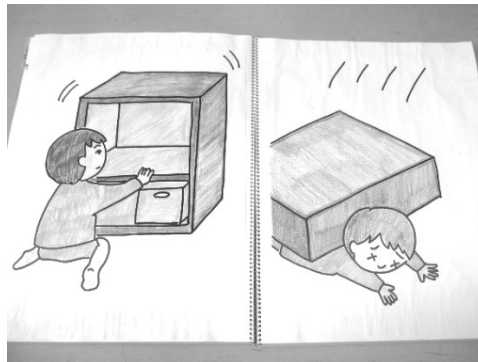


図 3. 棚の下敷きになる

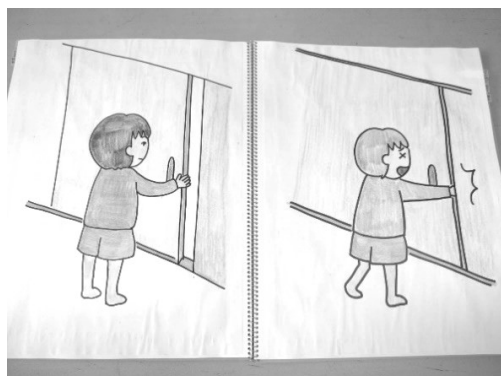


図4. 扉に手や指を挟む

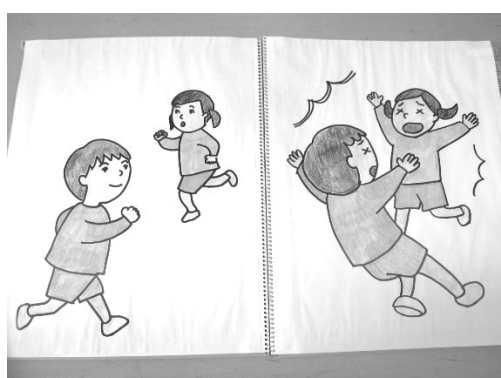


図5. 友達とぶつかる



図6. おもちゃにつまずく

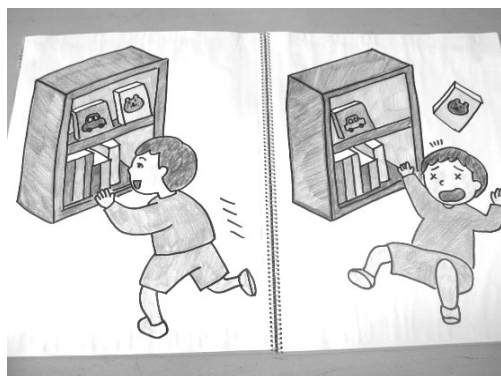


図7. 物が落ちてくる

表2 「話し合いの場面から」

T:「転んでしまう」時はどうしたらよいか
 A児:「下を見て歩こう」
 B児:「けど、下ばかり見ていたら危ないよ」
 C児:「周りを見たらいいんじゃない」
 これらの発言から
 T:「前を見て歩こうね」
 T:「棚を倒してしまう」
 D児:「ぶつかるからいけないんだよ」
 E児:「どうしてぶつかったの？」
 F児:「前見てないからじゃない？」
 という発言から
 T:「これも、前を見ることが大事」ということ
 につながりました。

イラスト教材を見せ、子ども達と話し合いから得られた子ども達の意見を表2に示す。

保育者が子どもたちの意見をまとめて「前を見ることが大切だね」と言葉をかけることで、子どもたちも「前を見よう」という発言になっていったことが伺える。

この安全教育実践を通して、教材として、子ども達の身近に起こりえる事故事例をイラスト化することで場面がイメージでき、自分に置き換えて考え、保育室内を見渡し連想出来る事柄を発信することが出来た。

3.2 危険箇所探索、マップ作り

園内探検と称して、園内における危険と思われる箇所を、安全教材を参考にしながら探していった。3グループに分かれ保育者や友達と話し合いながら危険箇所を見つけ、シールでポイントをつけた。シールは、一人10枚渡し、園内マップにしるしをつけていった。表3に示す。危険箇所の選択は、子ども達の会話を聞き取り、あてはめていった。

表 3. 園内探検による危険箇所

1 階	保育室①	0	2 階	保育室④	2
	保育室②	17		保育室⑤	2
	保育室③	6		保育室⑥	30
	トイレ	6		トイレ	5
	廊下	39		廊下	64
	階段	10		階段	6
	テラス	13		屋上	59
	職員室	11	上 階段	7	

子どもにとって、一番危険と思われる箇所は二階の廊下で 64 件であった。二階の廊下は、L 字になっており衝突や前が見えない等が挙げられた。また、廊下沿いに各保育室があり幼児クラスが多いことから子どもの飛び出しもあった。さらに、窓もいくつかあり上る危険は少ないが手を挟む可能性は考えられる。これら事から、イラスト教材⑤「友達とぶつかる」イラスト教材④「扉で手を挟む」が該当する。

二番目は屋上の 59 件であった。屋上は広く、フェンスに囲まれている。保育者と一緒に行動する場としての認識があった。また、3 階に位置するため転落の危険が推測された。

一階の廊下も 2 階と同様に子どもが行きかうため危険箇所に選んでいた。ここでもイラスト教材⑤「友達とぶつかる」が当てはまる。しかし、1 階は乳児が中心に保育を行うため、廊下を中心とした生活よりも保育室を中心とした生活をしているため件数が二階ほどではなかったと考えられる。

保育室⑥は対象者が保育に使っている部屋のため件数が多い。イラスト教材全てが当てはまるという選択をしていた。

以上のイラスト教材を使つての危険箇所理解から、実際に園内における危険箇所探しをすることで、子ども達の理解度が明らかになった。これらの結果から、子どもが認識した危険箇所及び危険行為を整理した。

- ・不特定多数の子どもが行き交う場では、友達同士がぶつかる可能性が高い
- ・窓も多く、手を挟む危険がある

・1 階より、3 階で高さや建物の形状が異なると転落の危険を感じる

また、これらの危険から、「どうしたらよいか」といった対策も子ども達の言葉から伺え、「ぶつかるから、飛び出してはいけない」「前を見て歩く」など意見も出ていた。

これらのことから、危険についてイラスト教材を使って理解をし、実際に体験を通して危険を見つけ、さらに対策をかんがえろと言った、一連の学びが得られる事が明らかになった。

3.3 実践を通して

安全教育における危険の理解及び対策は得られたが、その知識を生かすことで、習得出来ると考えられる。そこで、実際に園外に行き、園周辺の危険箇所を確認しながら、公園まで園外保育に行った。その際、危険箇所だけでなく、交通ルールを知らせ、地域の人に挨拶をした。日案を表 4 に示す。

表4. 園外保育日案

保育のねらい	・園外保育に行き、園周辺の危険に気づき安全を意識する。		
保育の内容	・園外保育の中で、歩道の歩き方や曲がり角車道の危険を知り安全に行動できるようにする。		
時間	保育の流れと保育環境（構成）	予想される子どもの活動・姿	保育者の援助や配慮
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスに並び、園外保育に行くときの注意を確認する。 ①友達と手を離さない②先生を追い越さない③前を見て歩く④車に気をつける⑤横断歩道は手を挙げて渡る⑥地域の方には挨拶をするなど ・人数を確認して出発する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の話を聞く。 ・園庭の遊具に興味をもつ子もいるかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに話が聞こえる様、皆が見える場所に立ち話をする。 ・子どもたちに「危ないよね」「どうするといいかかな？」など投げかけ興味を持てるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道を渡るとき、右側通行を知らせる ・車に近づかないことを知らせる ・曲がり角では、向から自転車や人がくるかもしれないことを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あぶなかった」「あんなことをしたらだめだね」など意見が出るかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そうだよね」と共感し、「危ないよね」と確認していく。
10:15 公園到着	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を配り、危険（あぶない）が起こった原因を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをその場で言う子が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「皆の話を聞きたいから、一人ずつ聞いていくね」と声をかけ、意見が皆に聞こえるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの意見をまとめ、整理する。 ・危険について、再度確認する。 ・地図を集める・公園で遊ぶ・園に帰る 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの様子に合わせて問いかけをする。 ・公園で遊ぶ・園に帰る 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険がないようにするには「どうしたらよいか」を尋ねていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 今日のまとめをし、園周辺りに起こりえる危険を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスにて話を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に、園周辺の危険は何があるか尋ね、自分で危険を知り、安全にする生活でできるよう促す。

表5 「園外保育時のやりとり」

園を出発して、2列に並び道路を歩く。保育士が3名付き、一緒に歩く。
【横断歩道】
T：横断歩道、こちらからわたります
子ども：（一斉に、保育士の声に顔を上げ聞く）
走り出す子もいる
A児：右、左、右だね
B児：うん
C児：二人の会話を聞きながら足早に歩く
【車】
D児：あっ、車
E児：もっとこっちー（車をよけようとする）
F児：うちにも車あるよ
G児：私も。
E児：うちも。僕の家はね、黒いろなの
D児：僕の家も近いよ
F児：この家、おしゃれー
【横断歩道から細い路地】
T：（横断歩道）わたります。渡った先は狭いから気をつけてね
子ども：（保育士の声に顔を上げて聞く）
先頭の子が足早に歩き出す。それにつられ、列の中間から走り出す子もいる。
G児：はやくー
H児：おさないで

園外保育時の子どものやりとりを表5に示す。この会話から、子どもが園外の歩道や横断歩道を渡るとき、また車に対して危険がともなうかもしれないという予測的な発言が見られる事が分かる。

また、友達の発言を、よく聴き、その言葉に関連する自分の経験や記憶にある話をし、前の子が早足で歩き出したら、自分も歩き出すと言った行動が見られた。

4. 考察

本実践では、安全教育を子どもたちに教材を用いてESD活動実践の一つとして捉え、これらの一連の活動を整理すると次のことが明らかになった。

①危険を知る中では、教材を使うことで子どもたちのイメージが共通化することができどのようなことが危険で、その危険を回避するためにはどうしたらよいかを考えるきっかけを作っていた。自分だけでは思

いつかない子も、友達の意見を聞くことで知ることにつながった。

②体験を通して考えるでは、実際に園内を歩いて、思い思いの危険につながる場所を探していった。その際に、①危険を知るの中で使用したイラスト教材をイメージしながら「ぶつかるから危ない」「走ると転ぶ」と言いながらマップ作りをしていた。このように実際に、場所とイメージを一致させることで、より理解につながっていったと言える。

③実践を通してということで「園外保育」に出かけ、身近な環境の中での危険を探し、行動の見直しをする姿も見られた。

これらのことから、一連の活動として捉え、行うことでより効果があった言え、持続可能につながっていくと考えられる。

本研究の結果を活かして、保育士養成課程「子どもの健康と安全」の授業展開の中で、安全教育及び安全教育教材の意義を再認識し、保育に活かせられるよう努めていきたい。

5. 今後の課題

以上のことから、持続可能な安全教育とは、「的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択」「自他の安全に配慮して安全な行動をとる。自ら危険な環境を改善する」「安全で安心な社会づくり」の3つの視点をつなぎ、循環しながら、行っていくことが重要である事が分かった。しかし、本研究では、期間が3日という短い日程で行ったため、全体の計画（年間計画）の中で組み込むことでより継続的に取り組むことができると考える。

また、保育士の共通認識も重要な課題であった。その為には、保育者養成の「子どもの健康と安全」の中で安全に対する知識や防止する技術を修得する必要性がある。さらに、本研究では、数か月後に小学校に通うといった意識の高い年長児を対象としたため、子どもたちも意欲的に取り組んでいたが、園内には、0歳児から5歳児までいるため発達に応じた教材開発が必要である。これらの視点を今後の課題とし、継続的に行っていきたい。

謝辞

本研究に快くご協力いただきました保育園の先生方、園児の皆様に心より御礼を申し上げます。また、教材開発に関しまして愛知みずほ短期大学、鈴木安由美先生より貴重なご助言を賜りました。記して感謝申し上げます。

付記

本研究の一部は、平成 30 年度日本教材学会東海・近畿・北陸支部研究会、第 31 回日本教材学会研究大会で発表したものである。

引用文献

- 1) 全国保育士養成協議会 (2018) : 保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について : <https://www.hoyokyo.or.jp/19-2s4.pdfpp37-38> (2019. 12. 3 アクセス)
- 2) 厚生労働省編 (2018) : 保育所保育指針解説, フレーベル館, p. 6
- 3) 伊東 知之, 大野木 裕明, 石川 昭義 : (2014) 子どもの安全意識を高めるための塗り絵教材の開発的研究, 仁愛大学研究紀要人間生活学部篇第 6 号, pp. 57-72
- 4) 伊東 知之, 大野木 裕明, 石川 昭義 : (2015) 子どもの危険感受性を育てるための問題解決型教材の開発, 仁愛大学研究紀要人間生活学部篇第 7 号, pp. 59-71
- 5) 是澤 優子 : (2017) 幼児向け安全教材としての紙芝居の検討 : 場面と言語表現を中心とする内容分析, 東京家政大学教員養成教育推進室年報第 4 号, pp. 13-22
- 6) 北村友人, 中村文彦, 二村真理子, 松橋啓介, 吉田長裕, 蓮花一己, 中西盟 : (2014) 持続可能な開発のための教育 (ESD) を通した安全教育の実現に関する研究 pp. 1-7
- 7) 独立行政法人日本スポーツ振興センター : 学校安全 WEB, https://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/anzen_school/tabid/822/Default.aspx (2018. 11. 1 アクセス)